

Economic Indicators

発表日:2020年7月10日(金)

企業物価指数(2020年6月)

～商品市況の持ち直しを主因に前月比で5か月ぶりの上昇、目先は上昇が続く見込み～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部

エコノミスト 奥脇 健史 (TEL:03-5221-4524)

(単位:%)

		国内企業物価				最終消費財 (国内品)		国内企業物価 (連鎖指数)		輸出物価 (円ベース)		輸入物価 (円ベース)		
		前期比	前期比※	前年比	前年比 (消費税除く)	前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	
2019	6月	▲0.6	▲0.6	▲0.2	▲0.2	▲0.5	▲0.4	▲0.4	0.1	▲1.7	▲4.3	▲2.1	▲5.8	
	7月	▲0.1	▲0.3	▲0.7	▲0.7	0.0	▲0.5	▲0.1	▲0.4	▲0.2	▲4.9	▲1.9	▲8.4	
	8月	▲0.2	▲0.2	▲0.9	▲0.9	▲0.3	▲0.7	▲0.3	▲0.7	▲1.3	▲5.8	▲0.6	▲8.5	
	9月	0.0	▲0.1	▲1.1	▲1.1	0.1	▲0.8	0.0	▲0.9	0.0	▲6.2	▲0.8	▲9.7	
	10月	1.1	1.4	▲0.4	▲1.9	▲0.5	▲2.0	1.2	▲0.1	0.3	▲6.3	0.3	▲10.9	
	11月	0.1	0.1	0.1	▲1.4	0.1	▲1.2	0.1	0.3	0.3	▲6.0	0.3	▲11.3	
	12月	0.2	0.2	0.9	▲0.7	0.4	0.1	0.1	0.9	0.0	▲4.4	1.1	▲6.6	
	2020	1月	0.1	0.1	1.5	▲0.1	▲0.1	0.6	0.1	1.5	0.4	▲1.4	0.5	▲0.8
		2月	▲0.5	▲0.5	0.7	▲0.9	▲0.5	▲0.3	▲0.4	0.8	0.1	▲2.2	0.1	▲1.8
		3月	▲0.9	▲0.9	▲0.5	▲2.0	▲0.9	▲1.5	▲0.8	▲0.3	▲2.3	▲5.1	▲4.8	▲7.8
		4月	▲1.5	▲1.5	▲2.4	▲3.9	▲1.5	▲3.7	▲1.5	▲2.2	▲1.1	▲6.6	▲5.7	▲13.3
		5月	▲0.5	▲0.5	▲2.8	▲4.2	▲0.5	▲4.2	▲0.4	▲2.4	▲1.2	▲6.5	▲5.9	▲18.0
6月		0.6	0.6	▲1.6	▲3.1	0.8	▲2.9	0.6	▲1.4	0.8	▲4.1	0.9	▲15.6	

(出所) 日本銀行「企業物価指数」

※は夏季電力料金調整後の値。

○ 商品市況の持ち直しを受けて、国内企業物価は前月比で5か月ぶりの上昇

6月の国内企業物価は前月比+0.6%（コンセンサス：同+0.3%、レンジ：同▲0.3%～+0.7%）、前年比▲1.6%（コンセンサス：同▲2.0%、レンジ：同▲2.4%～▲1.4%）と、コンセンサスを上回る結果となった。また、消費税を除いた場合でみると前年比▲3.1%となった。

前月比で内訳をみると、商品市況の持ち直しを背景に石油・石炭製品が前月比+11.4%（寄与度：+0.51%pt）、非鉄金属が同+3.1%（同：+0.08%pt）、スクラップ類が同+13.6%（同：+0.06%pt）と上昇した。一方、電力・都市ガス・水道が、1～3月の原油価格下落の影響を受け、同▲0.3%（同：▲0.02%pt）とマイナスに寄与している。また、外食需要の低迷などを受け農林水産物が同▲0.3%（同：▲0.01%pt）と2か月連続で下落した。6月の国内企業物価は各国での生産活動再開を受けた商品市況の持ち直しを背景に、前月比で5か月ぶりの上昇となった。7月以降も持ち直しは続く予想する。

輸入物価指数は契約通貨ベースでは前月比+0.7%（前年比▲15.6%）、円ベースでは同+0.9%（同▲15.6%）となった。原油価格の持ち直しを背景に石油・石炭・天然ガスが契約通貨ベースで同+4.4%（寄与度+0.81%pt）とプラスに寄与したことで、契約通貨ベース、円ベースともに5月から上昇した。商品市況の持ち直しから、7月以降も持ち直しは続く予想する。とはいえ、世界経済の先行き不透明感は依然として強く、足下で原油価格の上昇は一服していることなどから、低水準での推移となるだろう。

○ 需要段階別・用途別指数は商品市況の持ち直しを受け、前月比で増加に転じる

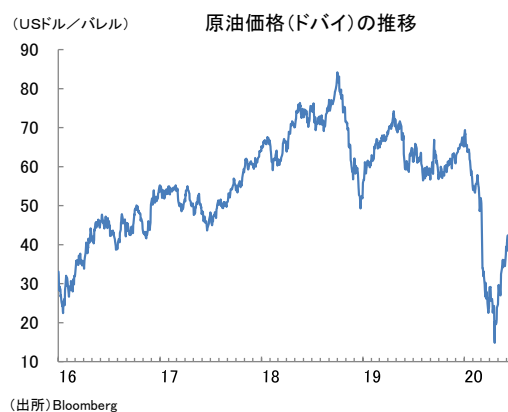
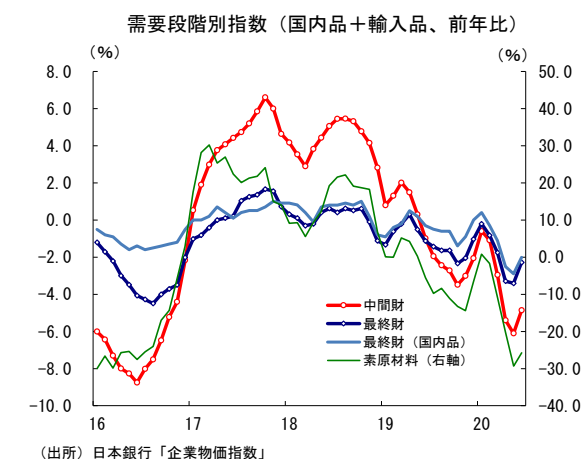
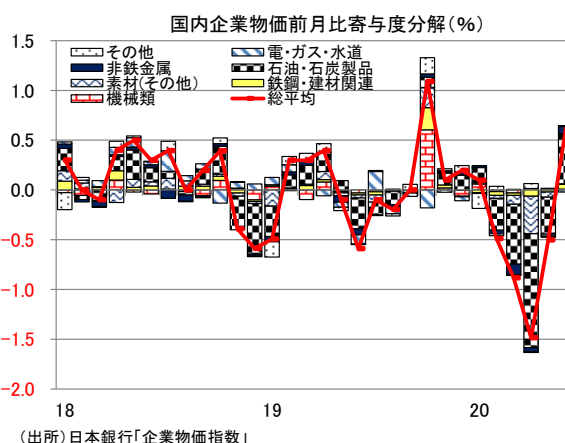
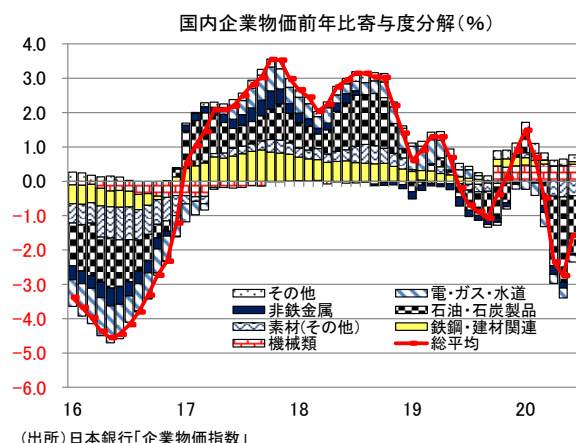
需要段階別・用途別指数（国内品+輸入品）をみると、素原材料は前月比+2.4%（前年比▲25.7%）、中間財は同+0.5%（同▲4.9%）、最終財は同+0.6%（同▲2.3%）となった。また、消費者物価との関連の深い消費財の国内品は同+0.8%（同▲2.9%）となった。商品市況の持ち直しを受け、各段階とも前月比で増加に転じた。7月以降も商品市況の持ち直しから素原材料を中心に前月比で上昇が続くとみるが、商品市況の持ち直しは一服感があり、持ち直しのペースは限定的なものとなるだろう。

○ 国内企業物価は目先上昇が続くと予想するも、持ち直しのペースは限定的に

6月の国内企業物価は前月比で5か月ぶりの上昇、前年比でのマイナス幅も縮小した。各国での経済活動再開を受けた商品市況の持ち直しが主因で、7月も前月比で上昇すると予想する。

とはいえ、先行きの持ち直しは限定的なものとなるだろう。持ち直しの主因となった商品市況については、世界経済の先行き不透明感などから足下で頭打ち感がでている。また、景気が大幅に悪化したことから、需給バランスの改善による国内企業物価の持ち直しも困難だろう。世界的に新型コロナウイルスの新規感染者数増加は続いており、経済活動が再開された国でも再度の経済活動の制限が行われるなどのリスクもあり、不透明感は強い。

今後、国内企業物価は夏場にかけて持ち直しをみせると予想するが、そのペースは限定的なものとなるだろう。消費税を除いたベースでみれば、前年比▲2%程度での推移が続くと予想する。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。